

木造聖觀音菩薩坐像



〔指定年月日〕平成二年一月一四日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕木造聖觀音菩薩坐像
〔点数〕一軀
〔所有者等〕栖岸院
〔所在地等〕永福一―六―一二

木造聖観音菩薩坐像

本像は像高四七cm、坐高三二cm、面長七cm、面幅五cm、肩幅一五cm、膝張り二二cmの菩薩形坐像で玉眼、白毫に水晶を嵌入した檜の寄木造りである。造立年代は鎌倉時代の後半頃と思われる。

小ぶりなこの像は宝冠・胸飾り（瓔珞）をつけ、左右の手は腹前にて禪定印を結び、右足を外にして結跏趺坐し、両足先は衣にて蔽われている。衲衣は両肩を蔽う通肩であるが、その衲衣の両袖が膝の横から左右に長く垂下しているところに、この仏像の大きな特徴がある。これは宋朝の仏像彫刻の影響をうけたもので、鎌倉時代後半、禅宗が普及するとともに鎌倉地方を中心とした広範囲にわたってみられる現象である。また、通肩に衣をまといて禪定印を結び、結跏趺坐する一見宝冠釈迦如来と呼んでもおかしくない像容も、当時の信仰を反映する本像の持つ特徴のひとつといえる。

本像は小像ではあるが、眼鼻立ちの整った気品のある仏像で、宋朝の影響を受けた鎌倉仏の特徴を残す仏像として貴重である。

【文化財所在地】

